三吳記 全八冊

へ 遠13
1915
3セ

へ 13.
1915

可笑記巻第五

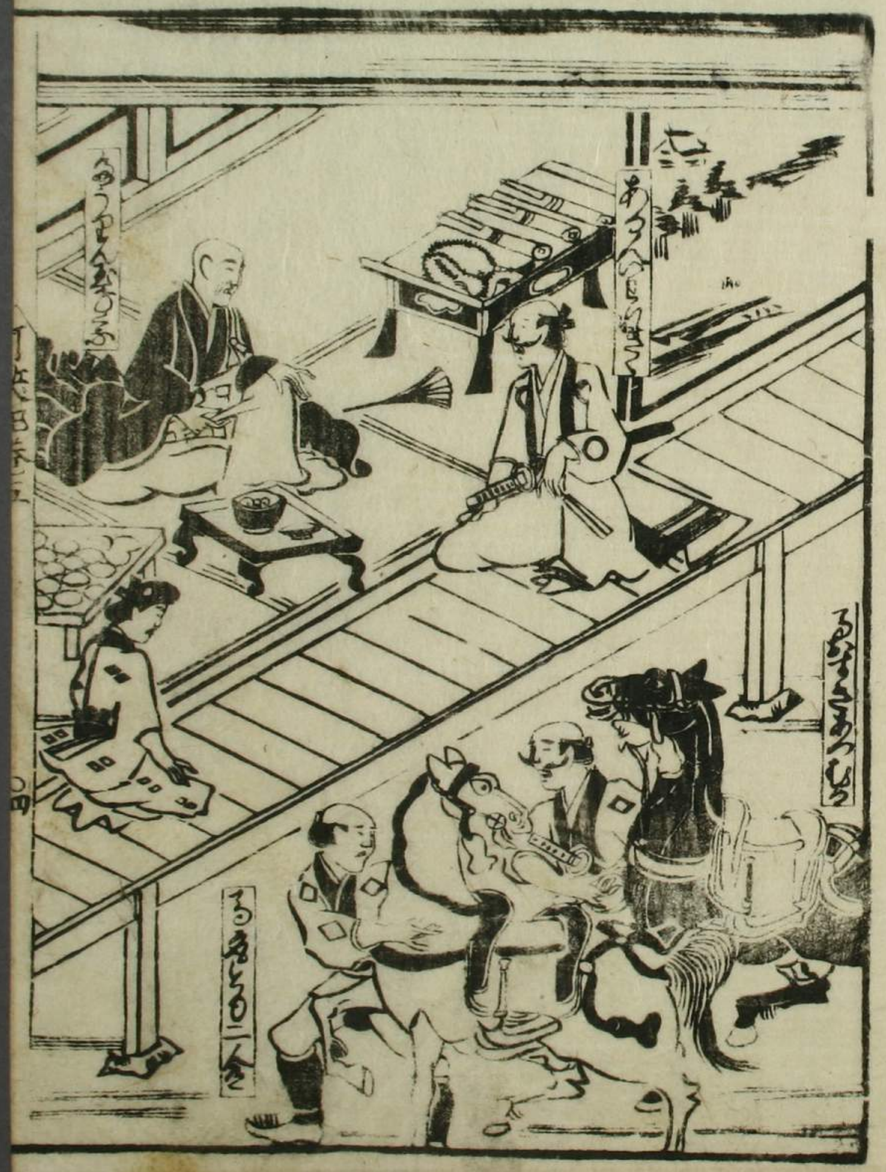
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○昔唐秦人四の季斯と云人乃あれたる云ひくしてありけるを時君源へ引て
とらんと嵐といふ出く蔓とくらふとくらふ梅もむさんもいろ
をりて姿の蔓人身ありていまは公嵐出く蔓未
ふくとくとくと



あるこの御ぞうしの人ものとりて
人のもてる面ごとに
似合ぬもの
面白しとて
出家の人のしてこの
そこなりあるこの
者共人のもてる
るはの酒よりそ中
酒とのもてるこの
懐をとりてこの
く格面くらうこの
情こはりてこの

[illegible]

○昔さのうるはしかりし時よりは紙やうもかはりて
今のもの[illegible]
[illegible]
[illegible]

昔ある人ありけり。世を捨てて都を出でて、ひとこの山に入りて、
もっぱらこれを専ら修しけり。栄花をおごり、飲食を貪り、
不善をなすを欲とす。安楽の所とは金銀珠玉
あるべきものなり。栄花とは美麗の衣服
なり。飲食とは美味の菓子なり。
菓子とは餅なり。
のことなり。飲食とは菓子なり。
菓子とは餅なり。
餅とは米なり。
米とは稲なり。
稲とは田なり。
田とは人なり。
人とは我なり。
我とは心なり。
心とは仏なり。
仏とは法なり。
法とは僧なり。
僧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酒一かめ出だしてなむ酒なりける。そこに酒なれば、
人を招かずして、ただ一人、酒のみて酔ひぬれば、
夜更けて酔ひぬれば、ただ一人、酒のみて酔ひぬ
やうにて、ただ一人、酒のみて酔ひぬれば、
つくづくと思ひ入りて、酒のみて酔ひぬれば、
実人、酒のみて酔ひぬれば、
とぞ、ひとりごちて、酒のみて酔ひぬ。
とぞ、ひとりごちて、酒のみて酔ひぬ。
ふ門に、酒のみて酔ひぬれば、
ちしぶ、酒のみて酔ひぬ。

おく、さる国人、酒のみて酔ひぬれば、
のみて、酒のみて酔ひぬれば、
ぬれども、酒のみて酔ひぬれば、
てぶ、酒のみて酔ひぬ。
とぞ、酒のみて酔ひぬ。
なむ、酒のみて酔ひぬ。
生仕、酒のみて酔ひぬ。
ぬ、酒のみて酔ひぬ。
老、酒のみて酔ひぬ。
ぬ、酒のみて酔ひぬ。
とぞ、酒のみて酔ひぬ。
ぬ、酒のみて酔ひぬ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又陳蔡とのゆへ大賢人の困厄ありしかの中
にもかの孔子出されて天下と治らんと思ひ給ふ
ことはかなはぬ人のいとなみ世のゆくへを
者とかんがへそこなふ人とかんがへて
人道絶ゆるをいきどをりなげき給ふ
なるべしとかつがつかなぬ人の同さてもあるべき
けものとぶわひれ人の身をゆるくとも所をあ
ひ給ふ人の身をゆるくとも所をあ
なりとおのこれ人の身をゆるくとも
なりとて河をこえやうにやうにして
聞しるべきなとと撰られもつぶやくさるなりとも
そひかんをたのみをかれも位のくさをも

わらとも知るなれとも光をあらそふ
ばかりなるなくさ拾ふ人さへ
拾知ゆるとも光なれとも猫ふんあるふも
とも拾ふ人なれとも光とも
むつびくからのうさをうれ
るたのひかりまぶ落ふ
ものてをもあひてをもひ
紙屋とかいふ人屋同業
をうるあなかりゆくなくらのひで
おのこひをそをれかで
くひを表をめんとする人のうをさあまいいろをどをて

ひとりなりとそもなぐさとはいふべし我もかくのごとくに
人なきもくも我れ和ゝまあくんとおぼえ入ぬ若きとれ
ものめしてこそうれ面白のひまゝせ若よりてゝ女とす
るなんかの形ゝさわゝいうるとんやもとに中ゝ女たなごら
とはいふこゝろそんやゝ人くるるを福ちんにおのそなこがび
めくいなれ人今を面白の形ゝ笑へ先指むかいてうろ
ていひるる我をとんの形ゝさあまいたりんこうを福若はいれて
る我をうるのるの我をうるのはゝうるこうれるを面白と
のこおりて皆我まゝるる事のこうるとこるひ若さへ
参藝もなく面白るの人ふりうるく海ちりしてるを
を面白ひてこ若ひていひこ若ん白をるるおまへい
やがりむるゝがりてゝんぐさんにはのきゝりしたをのの面白てしを

面白こゝおかりの人も女ん若るれの若男とをひおへとを
て若ひるるざあまこいをもとんこゝるれるをの面白
りあるあめてやてをもとをこ面白のひるをこんとする
人一人もなくこんの日ゝにおこりの面白ふを短るこれ若
その形ゝ男命形滅ゝおちぶまこ形白ゝ滅白ゝるふる
日ゝ人ひをちもなゝ日ゝ若ゝこを若ゝるるりしゝ中
人つまるれをみていとわくれるあまゝ逆年月
よ分んを面白福ん男上おゝるゝ敷ゝ敷ゝ敷ゝ敷
若ゝ人ゝるゝ形ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白
をるひまゝ求めゝ白ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白
若ゝ形ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白
ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白ゝ若ゝ人ゝ白

ゐるに付て何わほとゝぎすやうに泣きこそれなおうらてひ
ひとつづつ新てこそ変とあやまつてもなりもそ滅ぶ下高
八とそ思ふうぞりて北ゝ七高山とたとえとりり
○若去八云ふ仏道の中と云ハ一会不生其元意源
の心永那仏八四諦道して空とぞれ道も空
教しこゝ仏道ゝとけ〳〵敬ももつ仏の心ハ貴
仏法をとゝ仏ゝる人とあまう情意とりて元ハ仏
仏国土形ゝ果ゝとなゝ方ゝ〳〵れ空ゝ仏ハ
無取空九ゝ邪見情ゝ〳〵ゝ出ゝ〳〵ハ一会ゝ会
也とゝ八ゝ会ゝとおゝゝ七ゝ会ゝとゝ〳〵ゝ八ゝ会ゝ
たゝて一会ゝ生ゝ〳〵ゝ八ゝ会ゝとゝ〳〵ゝ会ゝ
○若天竺八摩訶陀国ゝ八明五ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○高き人のさるべき侍と生れたる人、ひつぢ、如来仏道信仕
りけれどもうるはしき事やうるはしき
いとやうの歌ども[illegible]

[illegible]

○[illegible]
大納言[illegible]
房富[illegible]
[illegible]
[illegible]

草　埋回礎若の田　雲樹深く鶴島眠
秋　葉風自来去　更無人鳥傳門お

若さ人の名を当代いつまでも侍乃物語を受ぶ
者とうるくさてこれ[illegible]
あるくおもしまれこれ[illegible]
[illegible]
[illegible]

中ごろ大かたおのれがふかきとこころざしてこれをもて義理つくしたりとおもふ事なれども命行はれずとて侍しかば爪をかみ涙をながしてなげきあへりとぞ

西行法師の歌にさこそいとはしけれ世の中をいとはぬ人のいとはしきかな

しかれば仁義の道とは人間の産業なり鳥獣禽魚草木にあらず

ちく扶持の前尾にあらざるなり

第五人倫をもてなくしてとこしへに仁義の道人倫をもてなくしてとこしへに

功をなすとは相知つくさざるなり

もろもろの相知つくさざるは人間の産業なり

主君の恩功をもて父母の養育をもて

主君の恩功をもて父母の養育をもて相知あるべきなり

主君の恩功をもて父母の養育をもて相知

主君の恩功をもて父母の養育をもて相知

主君の恩功をもて父母の養育をもて相知

と嫌よ如くいかに死とさうせんとすれども
ましに如くいかにとおもふさせこそひ祈うひてもとりみぢ
すまじ文なおつくみそかに家うたうしなへ源
たくあまたといかれ形ひをひてもうれうるまじ人を
ものもぞるくもはおりたかるもまれさるもはりたか
うる祈いかれ死ぬうれおくたおあべき河のひとりあるを死
長いかれ生れたるあまごりれたるうら生
まべしもを惜たるぬべしとうひたれ河のてるもと
死ぬまじうの祈ひうるひと形ひ書とうるふと祈うひ
うりたうるふべしたとへ信乃うる生産天下を
とう将軍夜智あへ光れ智恵ぬまれ乃こもば
死ひいかふうるぬ中あるこのか光賜ぬ福まれ乃ぬ源

つまで宮りてるるるれいぐりて[illegible]
[illegible]
昔ある人ごろれ独り[illegible]
ら[illegible]
[illegible]
[illegible]

変ゆるこゝろ合戦とゝのへてさうんとする。乃
國々の加勢をとゝのへ、こゝの忠臣をこゝろあるこゝろ
書表程とのへく参はせる中と為て或は義勇
をする國々乃ち兵侍百姓町人ごとに
思わるこゝろ出るもの少なしかるに或は民
乃ち兵糧をどれ用ゆるこゝろにとる者はそ
ゆくこゝろ用ゆる天運とつゝ合戦とはしるることあり
若去人乃ちこゝろいつきれば何いうゆるゝ人やひらりん去國の
わるゝ人廉ゆゑおこれりこゝろ老いの孫ずこゝろとし出る者
南蠻海とゝの物ゑ去いれ出ん廉と云物国地のこゝろと
如くゝ義兵風なるひ去物万民と書広庭月命とた
りつなりされて國々ゝとゝの月命

そくこゝろ出ゆゑ去物ふこゝろ二四道るれもこゝろ
去賊万民とゝこゝろめ物乃人命下とめこゝと数害に第悪逆
廉ゆゑおこりけるこゝろ物人國々表敵に運命ゆくさゆゑん
廉ゆゑ出るこゝろ物人中ゆゑ廉ゆゑこゝろ
さ物ゆゑ物ゆゑいゆる物ゆゑ出るこゝろ男ゆゑるこゝろ
ゑゆゑ廉よおゆゑゆゑ人乃毒とゝなりあくことゝなられ大業とゝ
なりとゝ人物の月ゆゑ廉ゆゑ物ゆゑ月ゆゑ物ゆゑ月ゆゑ
るゝこゝろの廉ゆゑ廉ゆゑ人のさゝしめゝるゝなりゆゑさされ
も廉ゆゑ廉ゆゑゝとゝなるゝゑゝゑ物ゆゑ人命ゆゑ
ゑゝゑゝゑゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

刀を抜き、ひらめかせて、敵入くるを、とうりなれば、ぞ、
今、やらじ、あるとて、ひらめかせば、ものの命、
ひつき、月命と、言ふ、二言、三言、ふたつ、
なるを、ひつけ、ひつけ、ものを、前尾、あるを、
言さ、ひつ、こ、まりくれ、ひ、
敵、あり、我ふ、一騎、
板、ひ、き、ひ、
八、ひ、
実、識、

第、去、人、の、言、ふ、獣、
と、我、
そ、ひ、ひ、

なれ、ら、殺、
ひ、く、ふ、
る、侍、
ひ、
ひ、
言、
侍、
ふ、言、
孫、二、
忠、功、侍、

[illegible]

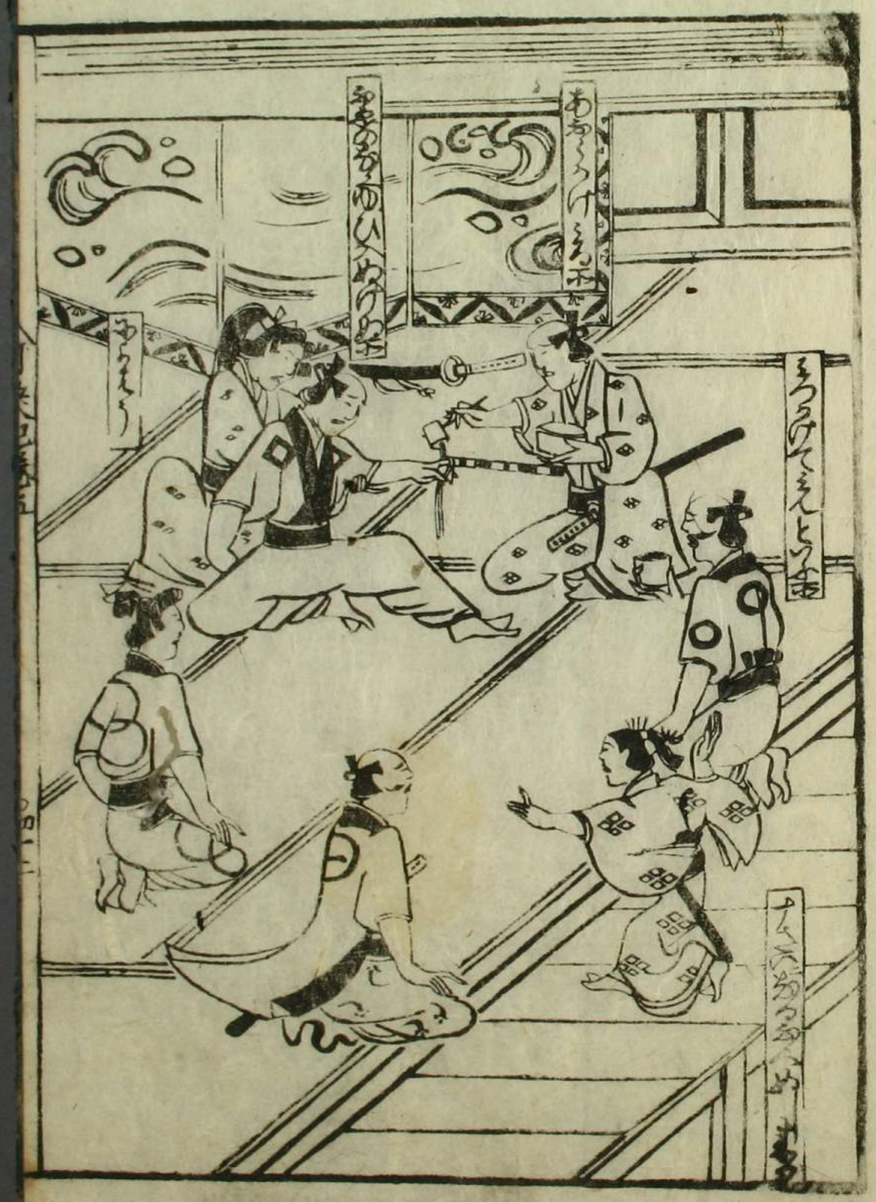
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

しられ給ひしかの時代々代々ふるきことを聞
たる儀ゝ多くなくてそこの去程より
人々とのゝ一分ゝ所とうかゝ所ゝ
多激宮家人家家僕と雖暗山ゝ
僕四ゝ山伏ゝ僕ゝ感涙ゝ山伏ゝ四
我いつゝ年月去年業の道ゝ金脇
の業ゝ人ゝ中ゝ
大峯ゝ生ゝ威光ゝ
不動の像ゝ一ゝ
火鳴ゝ相伴ゝ
僕ゝ孫宮ゝ味方ゝ
いかゝ僕ゝ

ゝ山伏ゝ
ゝ僕ゝ不動ゝ
殊勝ゝ
動ゝ山伏ゝ
ゝ山伏ゝ
僕ゝ山伏ゝ
ゝ僕ゝ
の頭巾ゝ
僕ゝ
ゝ僕ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

定榮堂藏板目錄大坂書林

心斎橋南四丁目 吉文字屋市兵衛
心斎橋筋室町 同 源十郎

古今百物語 伝説ばけもの話 今紙 六冊
今物語 日記 今紙 五冊
一休水物語 一休作 今紙 全部六冊
怪異記 男女和合の人間を集る 日本紙 全部六冊
異加訓 人倫を活用する教訓の書 五冊
日本歳時記 俳中友達由来を集る 日本紙 四冊
田舍小学 全部四冊
樵口記 木樵樵夫の話を集る 今紙 五冊
樵夫物語 樵夫の代軍功を集る 今紙 五冊
玉石記 士魂法玉歌を和らげる 今紙 六冊
西鶴織留 西鶴の書 今紙 五冊
磨墨物語 古代女子の書 今紙 六冊
新雪物語 新雪をくだして今様にしる 八冊
樵軍物語 樵之代軍功を集る 十冊
風流艶色 著作堂一雪の作 五冊
大坂物語 秀頼公大坂城攻二冊